

10月22日、エネマネ研

究会の方針発表会が開催された。同会には全国の太陽光発電の販売店・施工店・電気工事店、家電店、工務店など約70社が入会しており、団体としての年度が切り替わる10月に次年度の活動方針を発表する。

新たな活動方針の発表に先立ち、会長の福田電子代表取締役・福田勝氏は、

「新たな活動方針の発表に先立ち、会長の福田電子代



長取締役会代表氏
会代表氏
研究員
福田勝氏
福田勝氏
福田勝氏

光発電に加え、EVや蓄電池などを含めてトータルでエネルギーマネジメント支援ができる集団を目標し、2023年に現在の「エネマネ研究会」となった。

具体的には中小施工店を取り巻く課題に向け、「人材・生産性」「高付加価値化」「集客・マーケティング」の3つの方向性で新規チャレンジをサポートする。リアル勉強会、Webセミナー、現場見学会を通じ、実践知

と学びがなされる共有と成長を補完。異なる視点や知見を吸収し、スキルをさらに磨き上げていく場を提供する。福田会長の方針発表に続き、いま注目を浴びて

生可能エネルギー「アグリゲーション実証事業」にも参加している。三尾氏は蓄電池ビジネスの入り口となる調整力市場・容量市場・スポット市場の基礎知識や、投資回収し利益を得るポイントなどについて解説した。後半は「勝ち残るエネマネ事業者になるための道筋」をテーマに、参加した会員間でディスカッションが行われた。様々な議論が相次ぎ、中小企業の大

再エネ・新エネの制度・技術の変化スピードに「不断の情報収集と連携で追従」確認

全国の「街の工務店・施工店」の集まり・エネマネ研究会が年次会合開催

いる蓄電池ビジネス

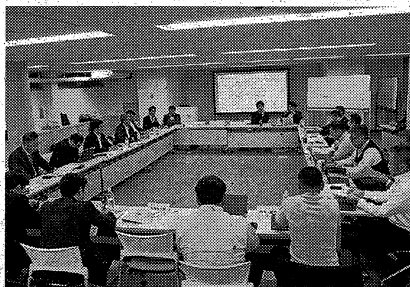
中央物産は公共・産業用蓄電池システムを手掛ける「エネマン」を経営。エネマネ研究会は経済産業省の「再エネ」をテーマに、参加した会員間でディスカッションが行われた。様々な議論が相次ぎ、中小企業の大

表取締役・福田勝氏は、同会の沿革を改めて振り返った。2010年にオール電化販売店・施工店向けの営業・施工セミナーを母体にして、「職人革命グループ」が結成された。そこからF1Tを追いかけてきた。太陽光発電の営業・施工の勉強会が中心となり、2012年に「職人革命会」



物・中央物産
代表取締役
中尾三郎氏
中尾三郎氏
中尾三郎氏

この変遷に対し、福田会長は「新エネルギー業界には常に変化がつきまとう。法律もことあるごとく変わって、毎年違う施策が出るなど、情報の入手と学びがなされる共有と成長を補完。異なる視点や知見を吸収し、スキルをさらに磨き上げていく場を提供する。福田会長の方針発表に続き、いま注目を浴びて



「実践知の共有」が会員間にもたらされた。また、日々の業務での生成AIの活用方法なども共有され、ま

太陽光・新エネルギービジネス

「実践知の共有」が会員間にもたらされた。